

marantz®

Model PM-14S1 取扱説明書

Integrated Amplifier

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。



感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。



電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。



必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。



必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にはほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。



禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



水ぬれ禁止

水滴や水しびきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因となります。



分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。内部の点検・調節・修理は販売店にご依頼ください。



接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



接触禁止

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。



高温注意



禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。



水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



注意

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。

電流量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。



必ず実施

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。

根元まで差し込んでみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事にコンセントの交換を依頼してください。

また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止



禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

すぐに電源コンセントからプラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切っても電源コンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜くことができるようにしてください。



ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。



必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。

また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。



必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。



禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。



禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。



禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど高温になる場所



必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間を開けてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけた上、じゅうたん・布団の上に置いて使用する



必ず実施

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
 - 指定以外の電池は使用しない
 - 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



禁止



禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。



注意

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

お買い上げいただき、ありがとうございます。

- ご使用の前に、この取扱説明書をお読みの上、正しくご使用ください。
 - お読みになったあとは、「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
 - この製品は持ち込み修理対象製品です。出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、ご了承ください。
- 詳しくは、保証書の裏面をご覧ください。

目次

ご使用になる前に	2
安全上のご注意.....	2
付属品について.....	4
リモコンについて.....	5
乾電池の入れかた.....	5
リモコンの使いかた.....	5
取り扱い上のご注意.....	5
設置の際のご注意.....	5
携帯電話使用時のご注意.....	5
結露(つゆつき)について.....	5
お手入れについて.....	5
本機の特長.....	6
各部の名前.....	7
フロントパネル.....	7
リアパネル.....	8
リモコン.....	9
接続のしかた	10
接続に使用するケーブル.....	10
スピーカーを接続する.....	10
スピーカーケーブルを接続する.....	10
スピーカーの接続.....	11
再生機器を接続する.....	11
録音機器を接続する.....	12
F.C.B.S. 接続.....	13
F.C.B.S. 接続の準備.....	13
ステレオコンプリートバイアンプ接続.....	14
5.1 マルチチャンネルの接続.....	15
パワーアンプダイレクト入力端子の接続.....	17
PRE OUT 端子の接続.....	17
リモートコントロール端子付きの機器を接続する.....	18
リモコンの操作をしやすいにする.....	18
マランツ製機器をリモート接続する.....	18
電源コードを接続する.....	18

再生のしかた	19
電源を入れる.....	19
電源をスタンバイにする.....	19
電源をオフにする.....	19
スピーカー出力をオンにする.....	19
入力ソースを選択する.....	19
音量を調節する.....	19
一時的に音を消す(ミュートイング).....	20
ミュートイングの減衰量を設定する.....	20
音量バランスを調節する.....	20
音質を調節する.....	20

設定のしかた	21
F.C.B.S. の ID 番号を設定する.....	21
パワーアンプダイレクトモードを設定する.....	21
パワーアンプダイレクトモードをオンにする.....	21
パワーアンプダイレクトモードをオフにする.....	21
イルミネーションランプの設定を切り替える.....	22
イルミネーションランプをオフにする.....	22
イルミネーションランプをオンにする.....	22
オートスタンバイモードを設定する.....	22
オートスタンバイモードをオフにする.....	22
オートスタンバイモードをオンにする.....	22

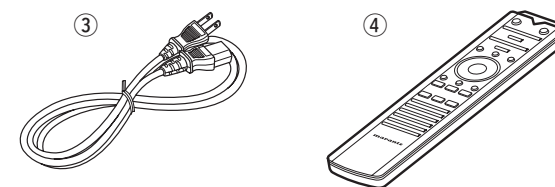
困ったときは	23
こんなときの解決方法.....	23
故障かな?と思ったら.....	23
エラーメッセージについて.....	26
保証と修理について.....	26

付録	27
用語の解説.....	27
保護回路について.....	27
主な仕様.....	28
索引.....	28

付属品について

ご使用の前にご確認ください。

- ① 取扱説明書(本書)..... 1
- ② 製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内..... 1
- ③ 電源コード【本機専用】..... 1
- ④ リモコン(RC001PMSA)..... 1
- ⑤ 単4乾電池..... 2
- ⑥ 保証書(梱包箱に貼り付けられています)..... 1



本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット



音のエチケット

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

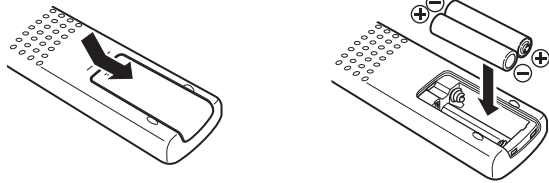
リモコンについて

このリモコンでは、本機とマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーの操作ができます。

●一部操作ができない製品もあります。

乾電池の入れかた

- ① 裏ぶたを矢印の方向へ押し
- ② 単4形乾電池(2本)をそれぞれ乾電池収納部の表示どおりに入れる。



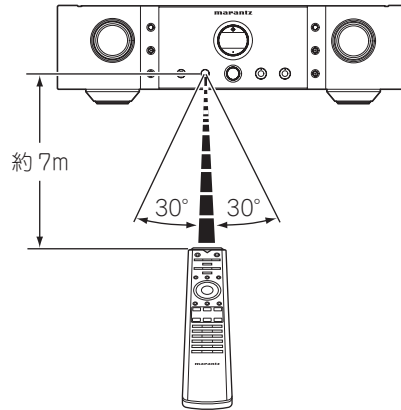
- ③ 裏ぶたを元のとおりにする。

ご注意

- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 乾電池は充電しないでください。
 - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
 - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。



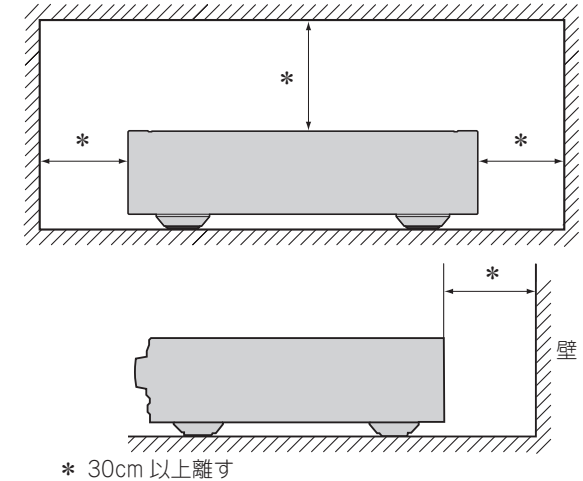
ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D 映像機器を構成している各ユニット(モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど)間の信号の伝送を無線通信(赤外線通信など)でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

本機内部の放熱をよくするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。



携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音(ノイズ)が入ることがあります。携帯電話は本機から離れた位置でお使いください。

結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1~2 時間放置してから使用してください。

お手入れについて

キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、やわらかい布を使用して軽く拭き取ってください。

- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

本機の特長

HDAM[®]SA3

HDAM[®]SA3 は、電流帰還型アンプの要となるアンプモジュールです。最重要部である電圧から電流変換部に搭載し、回路の安定度を向上させ、ハイスピードサウンドを支えます。

コンスタント・カレント・フィードバック型フォノイコライザー

上級モデルで開発したコンスタント・カレント・フィードバック型のフォノイコライザーを搭載しました。NF 型フォノイコライザーと CR 型フォノイコライザー両方式の長所を併せ持つマランツ独自の方式で MM カートリッジおよび MC カートリッジに対応します。

リニアコントロール・ボリューム

上級モデルのデザインコンセプトを踏襲したリニアコントロールボリュームを搭載しました。Micro Analog Systems 社 MAS6116 と HDAM[®]SA3 を組み合わせ、更に S/N 比を向上させました。0 ～ 100dB の範囲を ± 0.5dB ステップでスムーズにコントロールします。

F.C.B.S.(フローティング・コントロール・バス・システム)制御

PM-14S1 を最大 4 台まで接続して連動動作させることができる、フローティング・コントロール・バス・システム機能を搭載しています。コンプリートバイアンプ接続やマルチチャンネル接続など多彩な用途で使用することができます。また、接続した複数の PM-14S1 間でアースループが生じないため、音質への悪影響がありません。

バイアンプモード

マランツが提案したコンプリートバイアンプ接続はこれまでにない音場空間の再現が可能です。2 台の PM-14S1 をそれぞれモノラル・インテグレートッドアンプとして動作させるバイアンプモードとし、F.C.B.S.(フローティング・コントロール・バス・システム)制御で連動動作します。

パワーアンプダイレクトモード

パワーアンプダイレクトモードでは、本機はパワーアンプとして動作します。ホームシアター用などにもお使いいただけます。

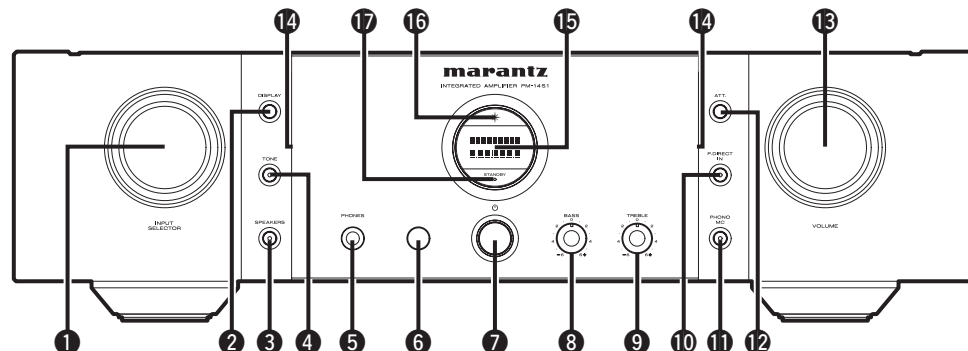
ディスプレイ

本機のディスプレイには LCD (液晶表示板) を採用しました。他の方式のディスプレイに比べて、駆動電力が少なく輻射ノイズが小さいため、音質への影響が極めて小さくなっています。

各部の名前

各部のはたらきなど詳しい説明については、()内のページを参照してください。

フロントパネル



① 入力ソース選択つまみ(INPUT SELECTOR)

入力ソースを選択します(19ページ)。

② ディスプレイボタン(DISPLAY)

イルミネーションランプのオン / オフを切り替えます(22ページ)。

③ スピーカー出力切り替えボタン/表示(SPEAKERS)

スピーカー出力のオン / オフを切り替えます(19ページ)。

- 本機の状態により次のように変わります。
- スピーカー出力オン時：青色
- スピーカー出力オフ時：消灯

④ 音質調節ボタン/表示(TONE)

音質調節モードのオン / オフを切り替えます(20ページ)。

- 本機の状態により次のように変わります。
- 音質調節モードオン時：青色
- 音質調節モードオフ時：消灯

⑤ ヘッドホン端子(PHONES)

ヘッドホンを接続します。

ご注意

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

⑥ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します(5ページ)。

⑦ 電源ボタン(⏻)

本機の電源をオン / オフします(19ページ)。

⑧ 低音調節つまみ(BASS)

低音を調節します(20ページ)。

⑨ 高音調節つまみ(TREBLE)

高音を調節します(20ページ)。

⑩ パワーアンプダイレクトモード切り替えボタン/表示(P.DIRECT IN)

パワーアンプダイレクトモードのオン / オフを切り替えます(21ページ)。

- 本機の状態により次のように変わります。
- パワーアンプダイレクトモードオン時：青色
- パワーアンプダイレクトモードオフ時：消灯

⑪ フォノイコライザー切り替えボタン/表示(PHONO MC)

ご使用になるカートリッジの種類に合わせて、MM または MC に切り替えてください。

- モードにより次のように変わります。
- MC モード時：青色
- MM モード時：消灯

⑫ アッテネートボタン(ATT.)

消音します(20ページ)。

⑬ 音量調節つまみ(VOLUME)

音量を調節します(19ページ)。

⑭ イルミネーションランプ

電源をオンにすると青色に点灯します。

⑮ ディスプレイ

各種情報を表示します。

⑯ 電源表示

本機の状態により次のように変わります。

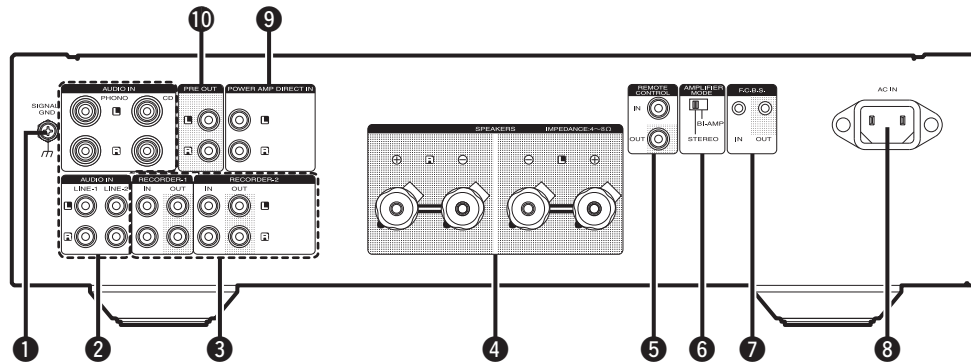
- 電源オン時：青色
- スタンバイ時：消灯
- 電源オフ時：消灯

⑰ スタンバイ表示(STANDBY)

本機の状態により次のように変わります。

- 電源オン時：消灯
- スタンバイ時：赤色
- 電源オフ時：消灯

リアパネル

**① アース端子(SIGNAL GND)**

レコードプレーヤーを接続します(11ページ)。

ご注意

この端子は安全アースではありません。

② 音声入力端子(AUDIO IN)

再生機器を接続します(11ページ)。

③ 録音入出力端子(RECORDER-1, RECORDER-2)

録音機器を接続します(12ページ)。

④ スピーカー端子(SPEAKERS)

スピーカーを接続します(10, 11ページ)。

⑤ リモートコントロール入出力端子(REMOTE CONTROL)

リモートコントロール機能に対応しているマランツ製オーディオ機器を接続します(18ページ)。

⑥ アンプモード切り替えスイッチ(AMPLIFIER MODE)

アンプモードを切り替えます(STEREO/BI-AMP)
(14, 15ページ)。

⑦ F.C.B.S.入出力端子

本機を複数台使用した高品位な再生システムの接続に使用
します(13ページ)。

⑧ ACインレット(AC IN)

電源コードを接続します(18ページ)。

**⑨ パワーアンプダイレクト入力端子
(POWER AMP DIRECT IN)**

本機をパワーアンプとしてご使用になる場合に、プリアンプを接続します(17ページ)。

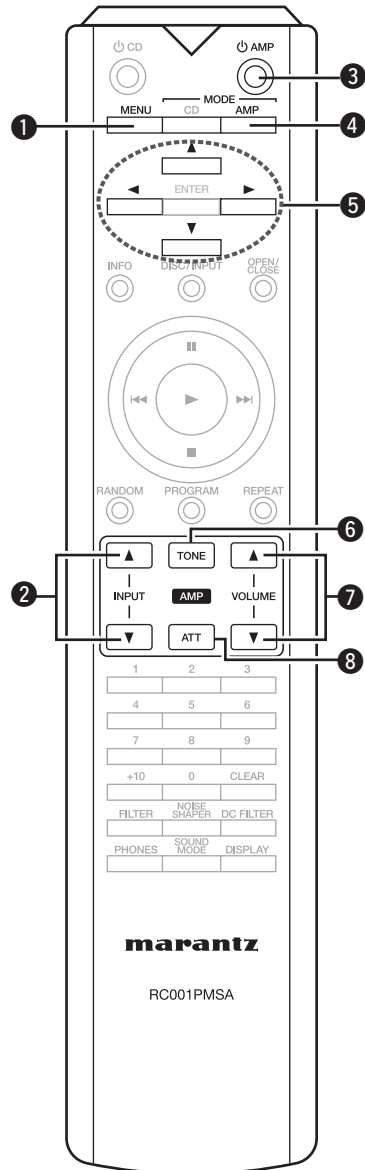
⑩ プリアウト端子(PRE OUT)

パワーアンプやサブウーハーを接続します
(17ページ)。

リモコン

□アンプ操作のボタン

本機を操作するときは、リモコンモード切り替えボタン(AMP MODE)を押して、リモコンを本機の操作モードに切り替えます。



- ① **メニューボタン(MENU)**
音量バランス調節モードを表示します(☞20ページ)。
- ② **入力ソース選択ボタン(INPUT ▲▼)**
入力ソースを選択します(☞19ページ)。
- ③ **アンプ用電源ボタン(⏻ AMP)**
本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)します(☞19ページ)。
- ④ **リモコンモード切り替えボタン(AMP MODE)**
リモコンをアンプ操作モードに切り替えます。
- ⑤ **カーソルボタン(△▽◀▶)**
音量バランスの調節に使用します(☞20ページ)。
- ⑥ **音質調節ボタン(TONE)**
音質調節モードのオン/オフを切り替えます(☞20ページ)。
- ⑦ **音量調節ボタン(VOLUME ▲▼)**
音量を調節します(☞19ページ)。
- ⑧ **アッテネートボタン(ATT)**
消音します(☞20ページ)。

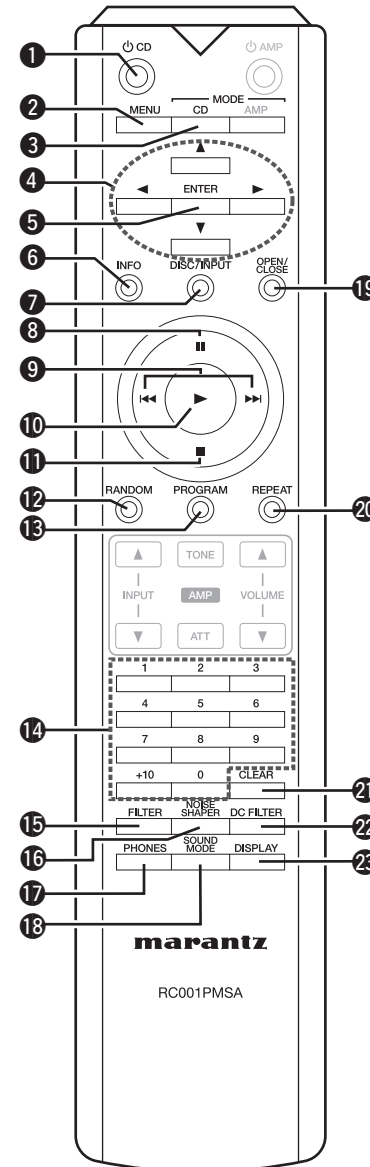


- このリモコンは、マランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーの操作もできます。
- ご使用の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

一部操作ができない製品もあります。

□スーパーオーディオ CD プレーヤー操作のボタン



- ① **スーパーオーディオCD用電源ボタン(⏻ CD)**
- ② **メニューボタン(MENU)**
- ③ **リモコンモード切り替えボタン(CD MODE)**
- ④ **カーソルボタン(△▽◀▶)**
- ⑤ **エンターボタン(ENTER)**
- ⑥ **情報表示切り替えボタン(INFO)**
- ⑦ **入力ソース選択ボタン(DISC/INPUT)**
- ⑧ **一時停止ボタン(⏸)**
- ⑨ **スキップボタン(⏮⏭)**
- ⑩ **再生ボタン(▶)**
- ⑪ **停止ボタン(■)**
- ⑫ **ランダムボタン(RANDOM)**
- ⑬ **プログラムボタン(PROGRAM)**
- ⑭ **数字ボタン(0~9, +10)**
- ⑮ **フィルターボタン(FILTER)**
- ⑯ **ノイズシェーパーボタン(NOISE SHAPER)**
- ⑰ **ヘッドホンボタン(PHONES)**
- ⑱ **サウンドモードボタン(SOUND MODE)**
- ⑲ **ディスクトレイ開閉ボタン(OPEN/CLOSE)**
- ⑳ **リピートボタン(REPEAT)**
- ㉑ **クリアボタン(CLEAR)**
- ㉒ **DCフィルターボタン(DC FILTER)**
- ㉓ **ディスプレイボタン(DISPLAY)**




接続のしかた

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します(27 ページ「保護回路」)。
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- スピーカーは 4~8 Ω のインピーダンスのものをお使いください。

接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

スピーカーケーブル	
音声ケーブル	
リモート接続ケーブル	

スピーカーを接続する

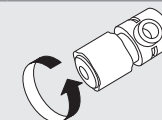
スピーカーケーブルを接続する

本機とお使いになるスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、-(白)をよく確認し、同じ極性を接続してください。スピーカー端子はYラグの接続にも対応しています。

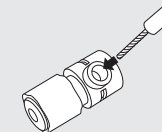
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるなど端末処理をおこなう。



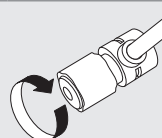
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



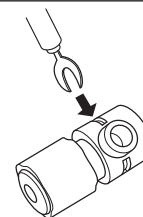
- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



- 4 スピーカー端子を右に回してしめる。

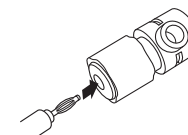


Yラグ端子の場合

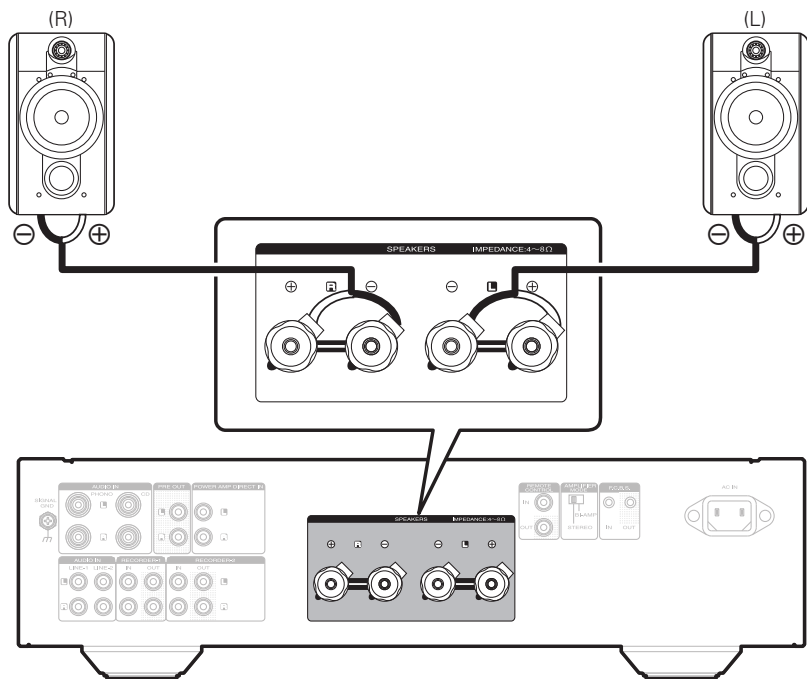


バナナプラグの場合

端子を右に回して締め付けてから挿入する。



スピーカーの接続

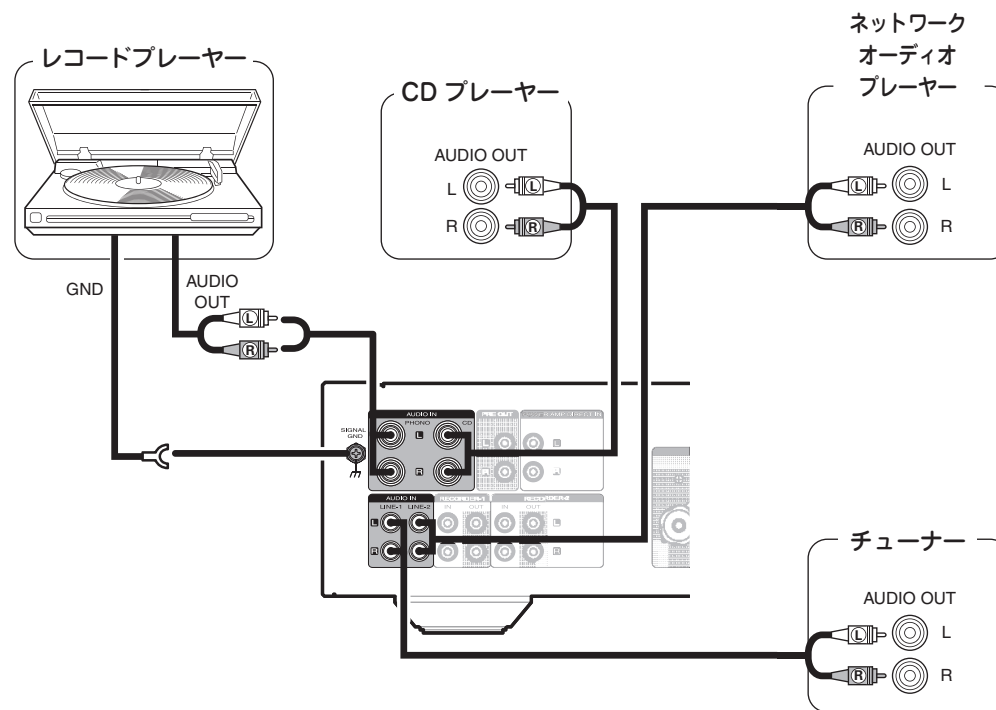


再生機器を接続する

本機には、レコードプレーヤー、チューナー、CDプレーヤーおよびネットワークオーディオプレーヤーを接続できます。

使用するレコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせて、フォノイコライザー切り替えボタンを押してMMまたはMCに切り替えてください。

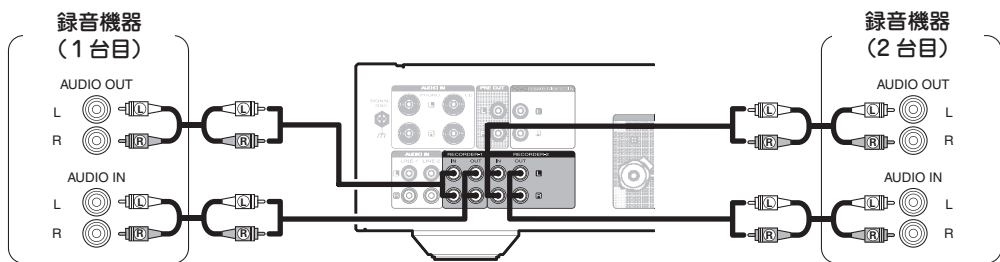
本機の入力ソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される場合があります。



ご注意

本機のアース端子(SIGNAL GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。

録音機器を接続する



F.C.B.S. 接続

マランツのシステム制御方式 F.C.B.S.(Floating Control Bus System)は、PM-14S1 を複数台(最大 4 台) 使用しておこなう高品位な再生システムです。それぞれの PM-14S1 に登録した ID を利用して各機器を制御します。

操作をおこなう機器(マスター)と、マスターからの操作コマンドを受ける機器(スレーブ)を、ID の登録で設定します。スレーブにはマスターからの信号を入力する順番に ID 番号を登録します。登録後は、入力ソースの切り替え、音量調節、ATT 機能、ディスプレイ表示、トーンコントロールのオン・オフの切り替えなどの連動操作がおこなえます。

また、複数台を使用する再生システムには、通常ステレオ出力の PM-14S1 をモノラル出力アンプに切り替えて使用する機能もあります。それぞれの接続の説明にしたがって設定してください。

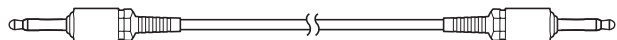
F.C.B.S. 接続の準備

□F.C.B.S. 接続のしかた

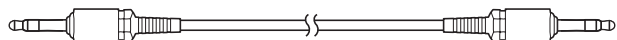
PM-14S1 を複数台使用した再生システムには、音声接続の他にこの接続が必要です。各再生システムの接続については、それぞれの接続の説明をご覧ください。

F.C.B.S. 接続には、市販されている両端がミニプラグ形状のオーディオ接続用コードを、接続する PM-14S1 の台数分ご用意ください。接続コードは下記 2 種類のどちらでもかまいません。

- モノラルミニプラグ⇄モノラルミニプラグの接続コード



- ステレオミニプラグ⇄ステレオミニプラグの接続コード

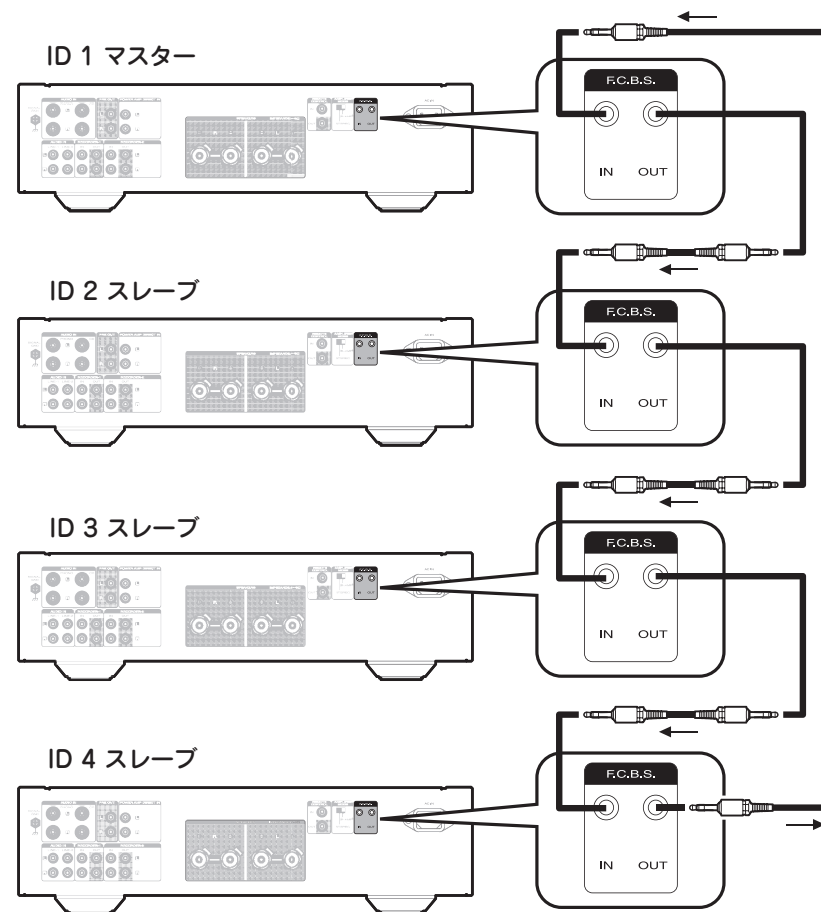


ご注意

抵抗入りの接続コードは使用できません。

□接続例

この例では ID 番号 1 のアンプがマスターとなり、ID 番号 2~4 のスレーブ機器 3 台すべてをコントロールします。



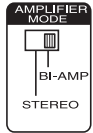
ご注意

- PM-14S1 の F.C.B.S. 機能は、PM-14S1 同士間でのみ有効です。当社の他機種 (PM-11S3 等) との接続では正常に動作しない場合があります。
- F.C.B.S. 接続した複数台のアンプの電源をオンオフする場合は、ID 番号の小さいアンプから順に電源をオンにして、ID 番号の大きいアンプから順に電源をオフにしてください。

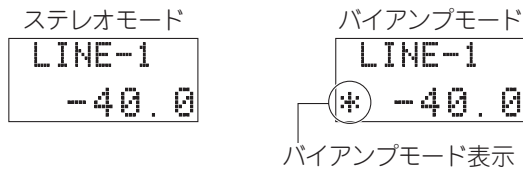
ステレオコンプリートバイアンプ接続

本機 1 台に搭載している左右のアンプをひとつのモノラルアンプとして使用できるモードです。本機 2 台を F.C.B.S. 接続して使用します。

モードの切り替えは、本機の電源がオフのときにリアパネルのアンプモード切り替えスイッチでおこないます。



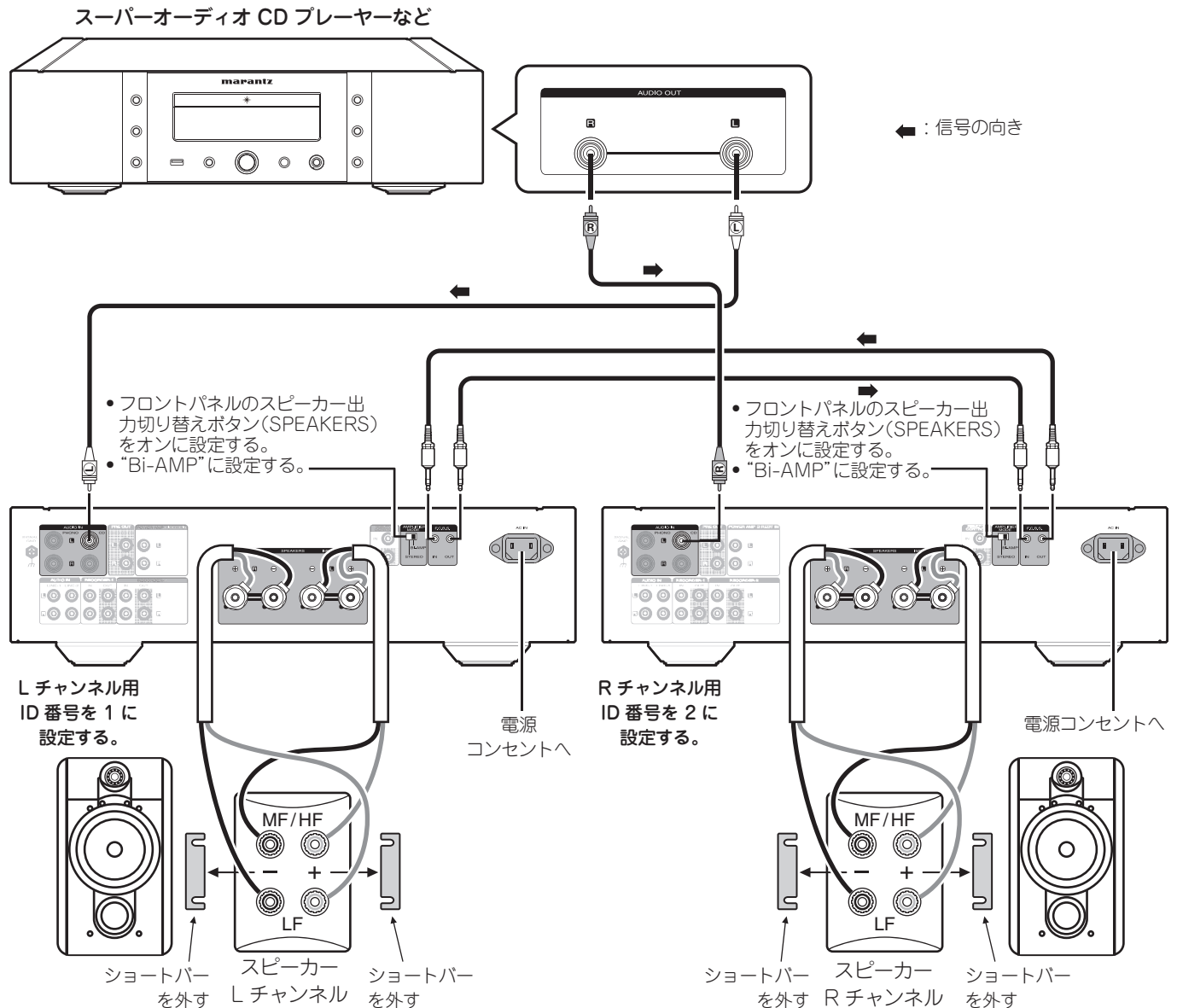
下図はステレオモードとバイアンプモードの表示例です。



バイアンプモードのときは、L チャンネルの入力端子に入力します。R チャンネルは入力動作を停止します。左右の出力端子から同じ信号を出力します。

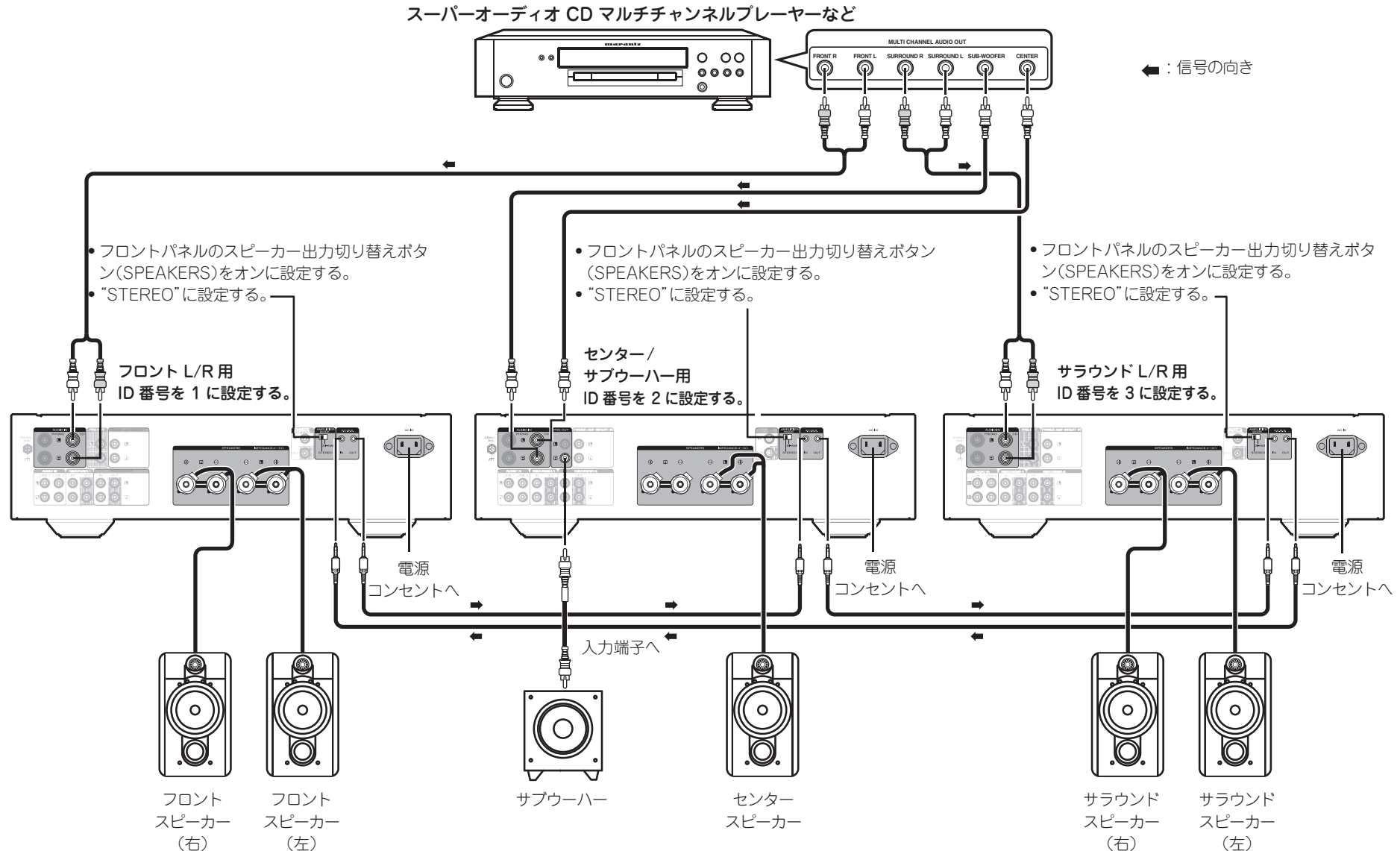
ご注意

- アンプモード切り替えスイッチは必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。電源を再投入することで設定が有効になります。
- バイアンプモード時は R チャンネルの入力端子は使用できません。
- バイアンプモード時は L チャンネルに入力された信号が両方のチャンネルに出力されるため、RECORDER OUT、PRE OUT、PHONES OUT 端子からは L チャンネル、R チャンネル共に同じ信号を出力します。
- コンプリートバイアンプ接続できるスピーカーはバイアンプ接続に対応している必要があります。接続する前にスピーカーの取扱説明書でご確認いただくか、製造メーカーにお問い合わせください。



5.1 マルチチャンネルの接続

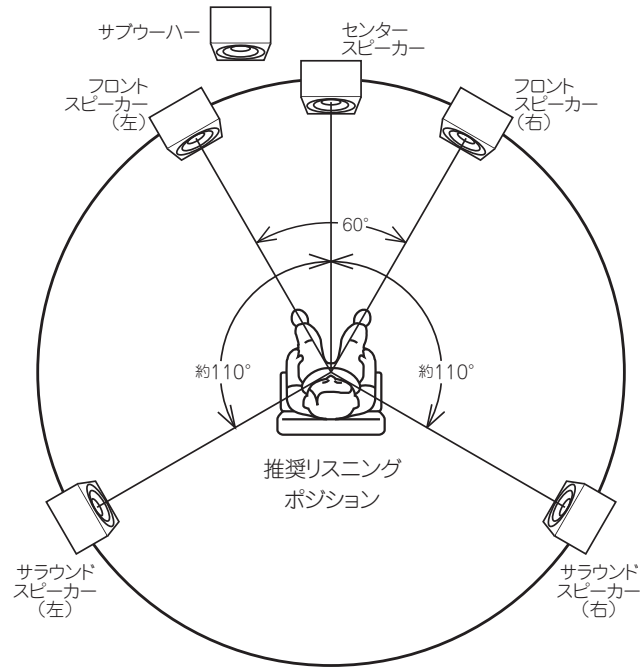
- ① 本機 3 台を F.C.B.S. 接続して連動動作させます。接続のしかたは「接続例」(P.13 ページ)をご覧ください。
- ② 3 台のアンプの ID 番号を「ID 番号の設定のしかた」(P.21 ページ)を参照して設定してください。
ID1 のアンプを操作すると、ID2 と ID3 のアンプが連動して動作します。
- ③ 5.1 チャンネルアナログ出力を持つプレーヤーの出力をそれぞれ 3 台のアンプに接続します。
- ④ サブウーハーを使用する場合は、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。



□スーパーオーディオ CD マルチチャンネル再生のためのスピーカー設置について

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU(国際電気通信連合)が定めた規格である「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置をおすすめします。スーパーオーディオ CD マルチチャンネルディスクは、「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置で最良の音場が得られるようにレコーディングやミキシングがおこなわれています。

- スーパーオーディオ CD マルチチャンネルのディスクに記録されている音声信号は5チャンネル(3~6も可能)が基本で、6番目のチャンネルとしてLFE(サブウーハー用)が記録されていることもあります。
- 記録されているチャンネル数はディスクに表示してありません。
- スピーカーシステムの本数は、フロント側3本、サラウンド(リア)側2本の5本が基本です。
- 右図のように、フロント(左右)、センター、サラウンド(左右)の各スピーカーシステムを、リスニングポジションを中心とする円周上に配置します。
- スピーカーシステムの大きさが異なるときは、アンプ側で各チャンネルの音量を調節してください。
- 図中のサブウーハーの位置は配置の一例です。実際はお部屋の環境に合わせて配置してください。サブウーハーの接続や設定方法は、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。



●ITU(国際電気通信連合)

ITUは「International Telecommunication Union(国際電気通信連合)」の略で、国際連合(UN)の専門機関の一つです。ITU-Rはその連合を構成する一つの部門で、「無線通信部門」です。

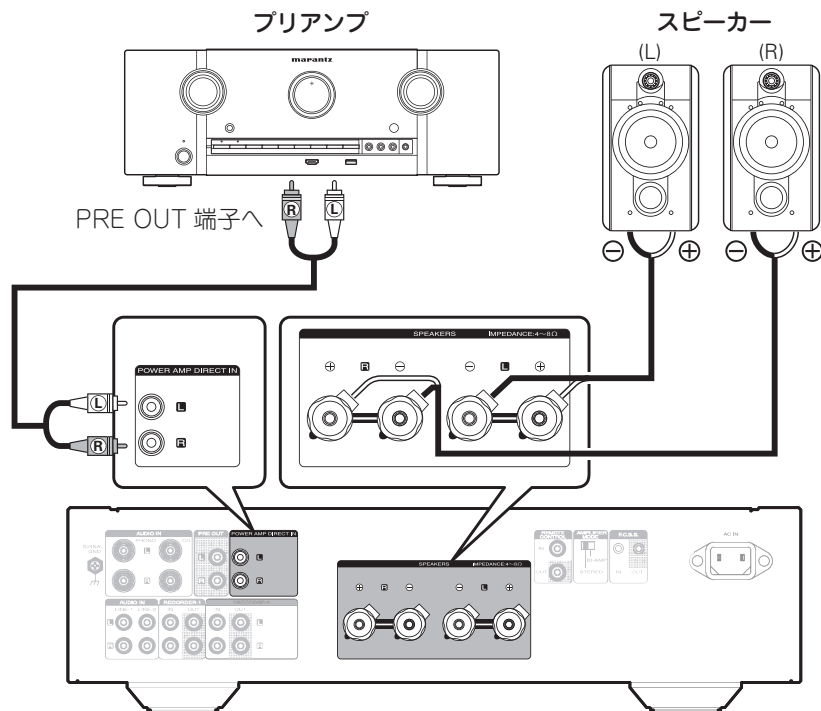
また勧告書のITU-R BSは「放送業務(音声)」に関する規格で、ITU-R BS.775-1はその中で「マルチチャンネル立体音響システム」について定められた規格です。

パワーアンプダイレクト入力端子の接続

プリアンプをお持ちの場合は、本機をパワーアンプとして使用できます。

本体の P.DIRECT IN ボタンを 3 秒以上押す。

- 押すたびにパワーアンプダイレクトモードが切り替わります。
- オンになると、ディスプレイに”POWER AMP DIRECT”を表示します。
オン：パワーアンプダイレクト入力端子に接続している機器を再生します。
オフ(お買い上げ時の設定)：選んでいる入力ソースを再生します。



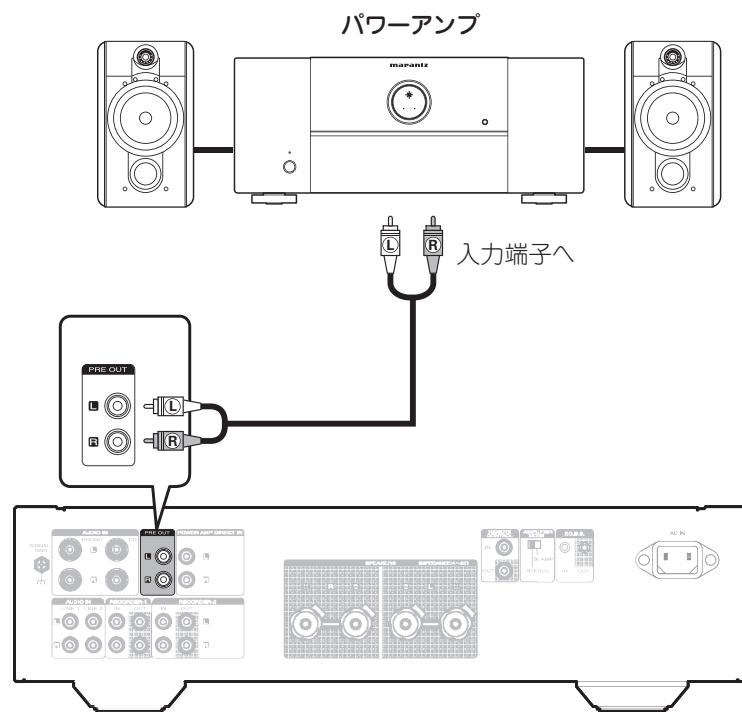
ご注意

- パワーアンプダイレクトモードをオンにすると、本機の音量、バランス、音質の調節は無効になります。それらの調節はプリアンプでおこなってください。
- パワーアンプダイレクトモードをオンにすると、本機の音量は最大になります。再生する前に入力側の機器の出力レベルを確認し、音量を調節してください。

PRE OUT 端子の接続

パワーアンプをお持ちの場合は、本機をプリアンプとして使用できます。

- スピーカーの接続については、ご使用になるパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。



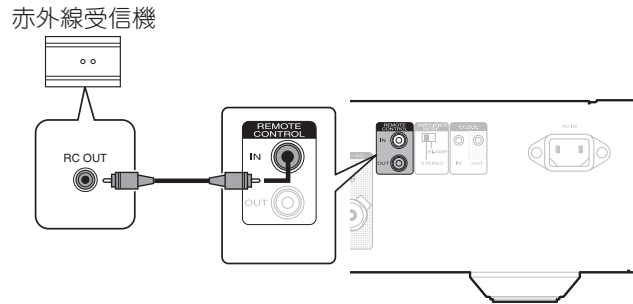
ご注意

パワーアンプダイレクトモードがオンの場合は、プリアウト出力はおこなえません。

リモートコントロール端子付きの機器を接続する

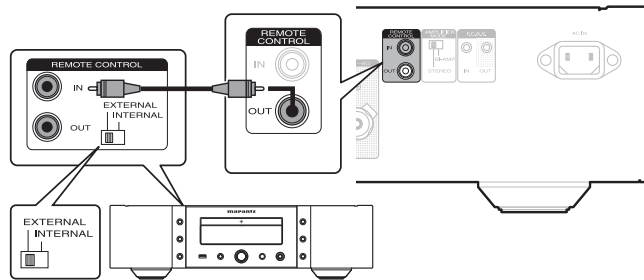
リモコンの操作をしやすくする

赤外線受信機(別売り)を本機に接続して使いやすい位置に設置することで、リモコンの操作がしやすくなります。



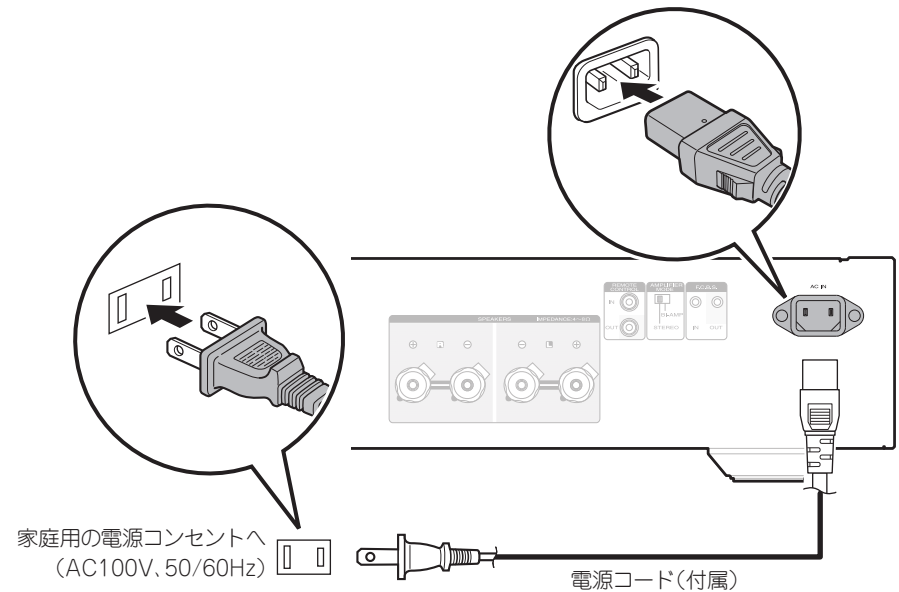
マランツ製機器をリモート接続する

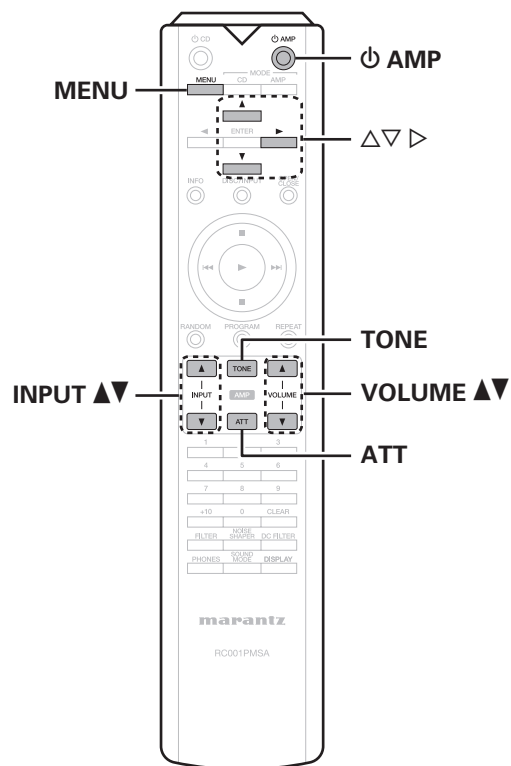
マランツ製オーディオ機器に付属しているリモート接続ケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。この接続をおこなう場合は、本機に接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”に設定してください。



電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。





電源を入れる

本体の **AMP** を押す。

- イルミネーションランプが青色に点灯します。
- 数秒後に再生可能な状態になります。

電源をスタンバイにする

本体の **AMP** を押す。

- 電源がスタンバイ状態になります。
- スタンバイ表示が赤色に点灯します。



- スタンバイ状態から再び電源をオンにする場合は **AMP** を押してください。
- スタンバイ中に本体の **INPUT SELECTOR** を操作しても電源がオンになります。

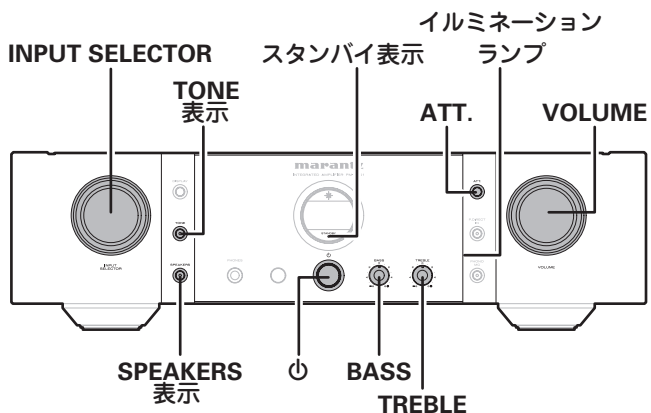
ご注意

電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、本体の **AMP** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源をオフにする

本体の **AMP** を押す。

- 電源がオフになります。
- すべての表示が消灯します。



スピーカー出力をオンにする

本体の **SPEAKERS** を押す。

- **SPEAKERS** 表示が点灯します。

入力ソースを選択する

INPUT ▲▼ を押して、再生する入力ソースを選ぶ。

- 選択した入力ソースの表示が点灯します。



本体の **INPUT SELECTOR** を回しても、入力ソースを選択できません。

音量を調節する

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。



本体の **VOLUME** を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュートイング)

1 ATT を押す。

ディスプレイに“ATT”を表示してミュートイングします。



ミュートイングを解除するときは、もう一度 ATT を押してください。

ミュートイングの減衰量を設定する

減衰量は -20dB、-40dB、-∞のいずれかに設定できます。

•お買い上げ時は -20dB に設定しています。

1 ATT を 2 秒以上長押しする。

ディスプレイに減衰量設定モードを表示します。



2 ATT を押す。

押すたびに減衰量の設定値が切り替わります。



- 本体の ATT. を押しても、減衰量を設定できます。
- 約 2 秒間操作をしない場合は、設定を確定して通常のディスプレイ表示に戻ります。

音量バランスを調節する

左右の音量を 0.5dB ステップで 0.0dB から 9.0dB の範囲で調節できます。

•お買い上げ時は 0.0dB(最大)に設定しています。

1 MENU を押す。

L チャンネルの設定モードになります。

•L チャンネルのレベル表示が点滅します。



2 Δ▽ で L チャンネルのレベルを調節する。



3 ▷ を押す。

R チャンネルの設定モードになります。

•R チャンネルのレベル表示が点滅します。



4 Δ▽ で R チャンネルのレベルを設定する。

5 MENU を押す。

音量バランス調節モードを終了します。

•F.C.B.S 接続で“スレーブ” (P13 ページ) を接続しているときは、続けてスレーブの設定をします。

音質を調節する

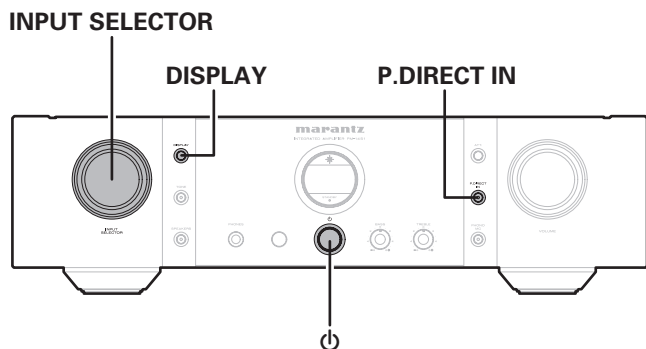
1 本体の TONE を押す。

TONE 表示が点灯し、音質調節モードになります。

2 本体の BASS および TREBLE を回して音質を調節する。



音質調節モードを解除するときは、もう一度 TONE を押してください。TONE 表示が消灯します。



F.C.B.S. の ID 番号を設定する

電源をオンにするとディスプレイに ID 番号を約 3 秒間表示します。



マスターの ID を "1" に設定します。
スレーブには "2" ~ "4" の ID 番号を設定します。

1 本体の DISPLAY を押しながら 電源 ボタン を押す。



2 本体の INPUT SELECTOR を回して ID 番号を選ぶ。



3 電源をオフにする。

4 再度電源をオンにする。

- 設定を記憶します。
- スレーブに設定した本機のディスプレイには "SLAVE" を表示します。

ご注意

- 本機をステレオアンプとして単独使用する場合は ID 番号を "0" に設定してください。
お買い上げ時は "0" に設定しています。
- ID 番号が "0" 以外では単独使用できません。

パワーアンプダイレクトモードを設定する

プリアンプを接続して本機をパワーアンプとしてご使用になる場合、パワーアンプダイレクトモードをオンに設定してください。

- お買い上げ時はオフに設定しています。

パワーアンプダイレクトモードをオンにする

本体の P.DIRECT IN を 3 秒以上長押しする。
ディスプレイに "POWER AMP DIRECT" を表示します。

パワーアンプダイレクトモードをオフにする

本体の P.DIRECT IN を 3 秒以上長押しする。
ディスプレイの "POWER AMP DIRECT" 表示が消灯します。

ご注意

- パワーアンプダイレクトモードをオンにすると、本機の音量、バランス、音質の調節は無効になります。それらの調節はプリアンプでおこなってください。
- パワーアンプダイレクトモードをオンにすると、本機の音量は最大になります。再生する前に入力側の機器の出力レベルを確認し、音量を調節してください。

イルミネーションランプの設定を切り替える

正面パネルの両側のイルミネーションランプのオン / オフを切り替えます。

- お買い上げ時はオンに設定しています。

イルミネーションランプをオフにする

本体の DISPLAY を 2 秒以上長押しする。
イルミネーションランプが消灯します。

イルミネーションランプをオンにする

本体の DISPLAY を 2 秒以上長押しする。
イルミネーションランプが点灯します。

オートスタンバイモードを設定する

オートスタンバイモードをオンにすると、約 30 分以上選んでいるソースからの入力がない状態が続いたときなどに、本機は自動的にスタンバイになります。

- お買い上げ時はオンに設定しています。

オートスタンバイモードをオフにする

本体の TONE を約 5 秒間押す。
ディスプレイに "AUTO STBY OFF" を表示します。

オートスタンバイモードをオンにする

本体の TONE を約 5 秒間押す。
ディスプレイに "AUTO STBY ON" を表示します。



- オートスタンバイモードは次の状態が約 30 分間続いたときにも、自動的にスタンバイ状態になります。
 - リモコンの操作がないとき
 - 本体の操作がないとき
- オートスタンバイ動作がはたらく 3 分程度前から、ディスプレイに残り時間を表示します。
- F.C.B.S 接続で使用した場合、オートスタンバイの検出は ID1 マスターのみでおこないます。ID1 マスターに音声入力がない状態で使用する場合は、オートスタンバイモードの設定をオフにしてください。

こんなときの解決方法

□ お好みの音質に調節したい

- 低音調節つまみ(BASS)、高音調節つまみ(TREBLE) および音量バランス調節モードでお好みの音質に調節してください(☞20 ページ)。

□ 消音時の減衰量を変更したい

- 本機での減衰量は -20dB、-40dB、-∞のいずれかに設定できます(☞20 ページ)。

□ 本機をパワーアンプとして使用したい

- パワーアンプダイレクトモードをオンに設定してください(☞21 ページ)。

□ 本機をプリアンプとして使用したい

- 本機の PRE OUT 端子にパワーアンプを接続してください(☞17 ページ)。

□ イルミネーションランプを点灯しないようにしたい

- イルミネーションランプの設定をオフにしてください(☞22 ページ)。

□ 本機を複数台使用して高品位な再生をおこないたい

- ステレオコンプリートパイアンプ接続をおこなってください(☞14 ページ)。
- マルチチャンネル接続をおこなってください(☞15 ページ)。

□ 本機のリモコンでマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーを操作したい

- リモコンモード切り替えボタン(CD MODE)を押して、リモコンの操作モードをスーパーオーディオ CD に切り替えてください。
- スーパーオーディオ CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

故障かな?と思ったら

□ 各接続は正しいですか

□ 取扱説明書にしたがって正しく操作していますか

□ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表にしたがってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様ご相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

目次

電源が入らない / 電源が切れる	(24)
リモコンで操作ができない	(24)
音がまったく出ない	(25)
希望する音が出ない	(25)
音がはずんだり、ノイズが入ったりする	(25)
エラーメッセージについて	(26)

□電源が入らない / 電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 	18
電源が自動的に切れる。	<ul style="list-style-type: none"> オートスタンバイモードが設定されています。操作がない状態で約30分間経過すると、オートスタンバイモードが動作します。オートスタンバイモードを無効にするには、オートスタンバイモード中に本体の音質調節ボタン(TONE)を5秒以上押してください。 	22
電源が切れ、電源表示が約2秒間隔で、赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で1時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。 	27 —
電源が切れ、電源表示が約0.5秒間隔で、赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> 本機が対応していないインピーダンスのスピーカーを接続しています。4~8Ωのものをご使用ください。 スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線同士が接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。 音量を下げて、電源を入れ直してください。 	10 10 19
電源を入れたときに、電源表示が約0.5秒間隔で、赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none"> 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。 	—

□リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 	5
	<ul style="list-style-type: none"> リモコンは、本機から約7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 	5
	<ul style="list-style-type: none"> 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 乾電池の⊕と⊖を正しくセットしてください。 	5
	<ul style="list-style-type: none"> 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 3D映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや3D視聴用メガネなど)の無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> リモコンモード切り替えボタン(AMP MODE)を押して、アンプ操作モードにしてください。 	9

□音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	•すべての機器の接続を確認してください。	10
	•接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	•入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	•ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	•スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。また、スピーカー端子をしっかりとめてください。また、スピーカー端子が緩んでいないか確認してください。	10
	•適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	19
	•主音量を適切な大きさに調節してください。	19
ステレオ再生のときに、左右の音声が入れ替わっている。	•ミュート(消音)モードを解除してください。	20
	•スピーカー出力をオンにしてください。	19

□希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
特定のスピーカーから音が出ない。	•スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	10
	•左右の音量バランスを調節してください。	20
ステレオ再生のときに、左右の音声が入れ替わっている。	•左右のスピーカーが正しいスピーカー端子に接続されているか確認してください。	10

□音がひずんだり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
レコード再生のときに、音がひずむ。	•針圧を調節してください。	—
	•レコードの針先を確認してください。	—
	•カートリッジを交換してください。	—
レコード再生のときに、“ブーン”という雑音が生ずる。	•レコードプレーヤーが正しく接続されていることを確認してください。	11
	•レコードプレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあると、再生音に影響を受ける場合があります。レコードプレーヤーをテレビや AV 機器などから離して設置してください。	—
レコード再生のときに音量を大きくすると、“ワーン”という雑音が生ずる(ハウリング現象)。	•レコードプレーヤーとスピーカーを離して設置してください。	11
	•スピーカーの振動が床を通してプレーヤーに伝わる場合があります。スピーカーの振動をクッションなどで吸収させてください。	—

エラーメッセージについて

本機を複数台使用してF.C.B.S.連動動作をした場合、ディスプレイに下表のようなエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合はID番号の設定やリモートケーブルの接続に問題がありますので、下表を参考にしてID番号やリモートケーブルの接続を確認してください。ID番号の設定は「ID番号の設定のしかた」(P.21ページ)をご覧ください。

	表示	意味
1	ERROR 02	ID番号2のアンプが重複しています。
2	ERROR 03	ID番号3のアンプが重複しています。
3	ERROR 04	ID番号4のアンプが重複しています。
→ ID番号が重複しないようにID番号を設定してください。		
4	ERROR 11	ID番号2～4のアンプがID番号1のアンプと通信できません。
→ ID番号1のアンプに電源が入っていない場合は電源を入れてください。		
→ リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。		
5	ERROR 12	ID番号1のアンプがID番号2～4のアンプと通信できません。
→ ID番号1のアンプが重複している場合はID番号を正しく設定してください。		
→ ID番号1のアンプにID番号0のアンプを接続している場合は、ID番号を正しく設定してください。		
→ リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。		

保証と修理について

□保証書について

この製品には保証書が添付されておりません。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

□保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

□保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。有料修理の料金については「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

□補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

□修理を依頼される時

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただかずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼される時

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 持ち込み修理対象製品の出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきますこととなりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼される時のために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

□依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号…保証書または製品背面(または底面や側面)に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

□お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

用語の解説

MM/MC カートリッジ切り替え

レコードプレーヤーに取り付けるカートリッジには、MM 型 (Moving Magnet) と、MC 型 (Moving Coil) の 2 種類があります。

出力レベルがそれぞれ異なるため、本機に搭載しているフォノイコライザーアンプの設定を、お使いのカートリッジの種類に合わせて切り替える必要があります。設定の切り替えは本体の PHONO MC ボタンでおこないます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで、 Ω (オーム) という単位であらわします。この値が小さいほど大きな出力が得られますが、アンプにかかる負担は増えます。本機が対応しているインピーダンスのスピーカーをお使いください。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、本機の電源をスタンバイ状態にする機能です。過負荷や過電圧から本機内部の回路の破損を防ぎます。

保護回路について

□保護回路について

本機にはアンプ回路およびスピーカーシステムを破損から保護する「保護回路」を搭載しています。

保護回路が動作するとすぐにミュート機能がはたります。このときディスプレイに“PROTECT”の文字が点滅し、スタンバイ表示も点滅します。

保護回路を解除するには一旦電源を切って約 1 分後に再投入してください。

●電源投入時

電源投入時アンプ回路が安定するまでの約 8 秒間、保護回路がはたらきミュート状態になります。その後、アンプの回路が安定すると保護回路を解除し音が出る状態になります。

●過大な電流が流れたとき

過大な信号が入力されアンプ回路に過大な電流が流れたときやインピーダンスが $4\ \Omega$ 未満のスピーカーシステムを接続して使用したときなど、設定以上の過電流を検出した場合に保護回路がはたらきます。誤ってスピーカーコードをショートしたときにも保護回路がはたらきます。

このときディスプレイに“PROTECT”の文字が点滅して自動的にボリュームを下げます。約 8 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調節してください。

また、過大な電流が流れ続けた場合は、アンプの電源をオフにし、スタンバイ表示が点滅します。

保護回路を解除するには一旦電源を切って約 1 分後に再投入してください。

●過大な超低域の信号が入力されたとき

設定以上の過大な超低域信号が入力された場合も保護回路がはたらきます。このときスタンバイ表示が点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約 8 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調節してください。また、過大な超低域信号の入力が続いた場合やアンプの故障により直流電圧が検出された場合は、アンプの電源をオフにし、スタンバイ表示が点滅します。

保護回路を解除するには一旦電源を切って約 1 分後に再投入してください。

●メインアンプが加熱したとき

過大な信号を入力された状態で連続使用した場合などメインアンプ部の温度が設定以上の温度になると保護回路がはたらきます。また、天面の通風孔を塞いで使用した場合や狭いラックに入れての使用した場合にも設定以上の温度になると保護回路がはたらきます。このときスタンバイ表示が点滅し自動的にボリュームを下げます。そして約 8 秒後に保護回路は解除しますので音量を再調節してください。

保護回路が動作してから一定時間内に温度が下がらなければ、アンプの電源をオフにし、スタンバイ表示が点滅します。保護回路を解除するには一旦電源を切ってアンプの温度が冷えるのを待って再投入してください。

●アンプが故障したとき

アンプの電源回路に異常を検出した場合は保護回路がはたらきアンプの電源を自動的にオフにします。また、内部のヒューズが切れた場合も保護回路がはたらきアンプの電源をオフにします。このときスタンバイ表示が点滅します。

一旦電源を切って数分待ってから再投入してください。再投入してもディスプレイが点灯せずスタンバイ表示が点滅している状態の場合は本機が故障していることが予測されます。

主な仕様

• 定格出力： (20Hz～20kHz 両チャンネル同時駆動)	90W × 2(8 Ω 負荷) 140W × 2(4 Ω 負荷)
• 全高調波歪率： (20Hz～20kHz 両チャンネル同時駆動、 8 Ω 負荷)	0.05%
• 出力帯域幅：(8 Ω 負荷、0.05%)	5Hz - 40kHz
• 周波数特性：(CD、1W、8 Ω 負荷)	5Hz - 100kHz ± 3dB
• ダンピングファクター： (8 Ω 負荷、20Hz～20kHz)	100
• 入力感度 / 入力インピーダンス	
PHONO(MC)：	270μV/100 Ω
PHONO(MM)：	2.7mV/47k Ω
CD/LINE：	240mV/20k Ω
P. DIRECT IN：	1.7V/20k Ω
• 出力電圧 / 出力インピーダンス	
PRE OUT	1.7V/220 Ω
• PHONO 最大許容入力 (1kHz)	
MC：	15mV
MM：	150mV
• RIAA 偏差 (20Hz～20kHz)：	± 0.5dB
• S/N 比 (IHF A ネットワーク、8 Ω 負荷)	
PHONO(MC)：	75dB(0.5mV 入力、1W 出力)
PHONO(MM)：	86dB(5mV 入力、1W 出力)
CD/LINE：	106dB(2V 入力、定格出力)
• トーンコントロール	
BASS(50Hz)：	± 10dB
TREBLE(20kHz)：	± 10dB
• 電源電圧：	AC100V、50/60Hz
• 消費電力(J60065)：	220W
• 待機消費電力：	0.2W

索引

🔍 M

MM/MC カートリッジ切り替え 27

🔍 かな

🔍 お

オートスタンバイモード 22

音質の調節 20

音量の調節 19

音量バランス調節 20

🔍 こ

故障かな?と思ったら 23

こんなときの解決方法 23

🔍 す

スピーカーインピーダンス 27

🔍 せ

接続

5.1 マルチチャンネル 15

F.C.B.S. 13

PRE OUT 端子の接続 17

再生機器 11

ステレオコンプリートバイアンプ 14

スピーカー 11

接続に使用するケーブル 10

電源コード 18

パワーアンプ 17

プリアンプ 17

リモートコントロール端子 18

録音機器 12

接続に使用するケーブル 10

🔍 て

電源を入れる 19

🔍 に

入力ソースを選ぶ 19

🔍 ふ

付属品 4

フロントパネル 7

🔍 ほ

保護回路 27

🔍 み

ミュートイング 20

🔍 り

リアパネル 8

リモコン 9

乾電池の入れかた 5

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ず AC100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

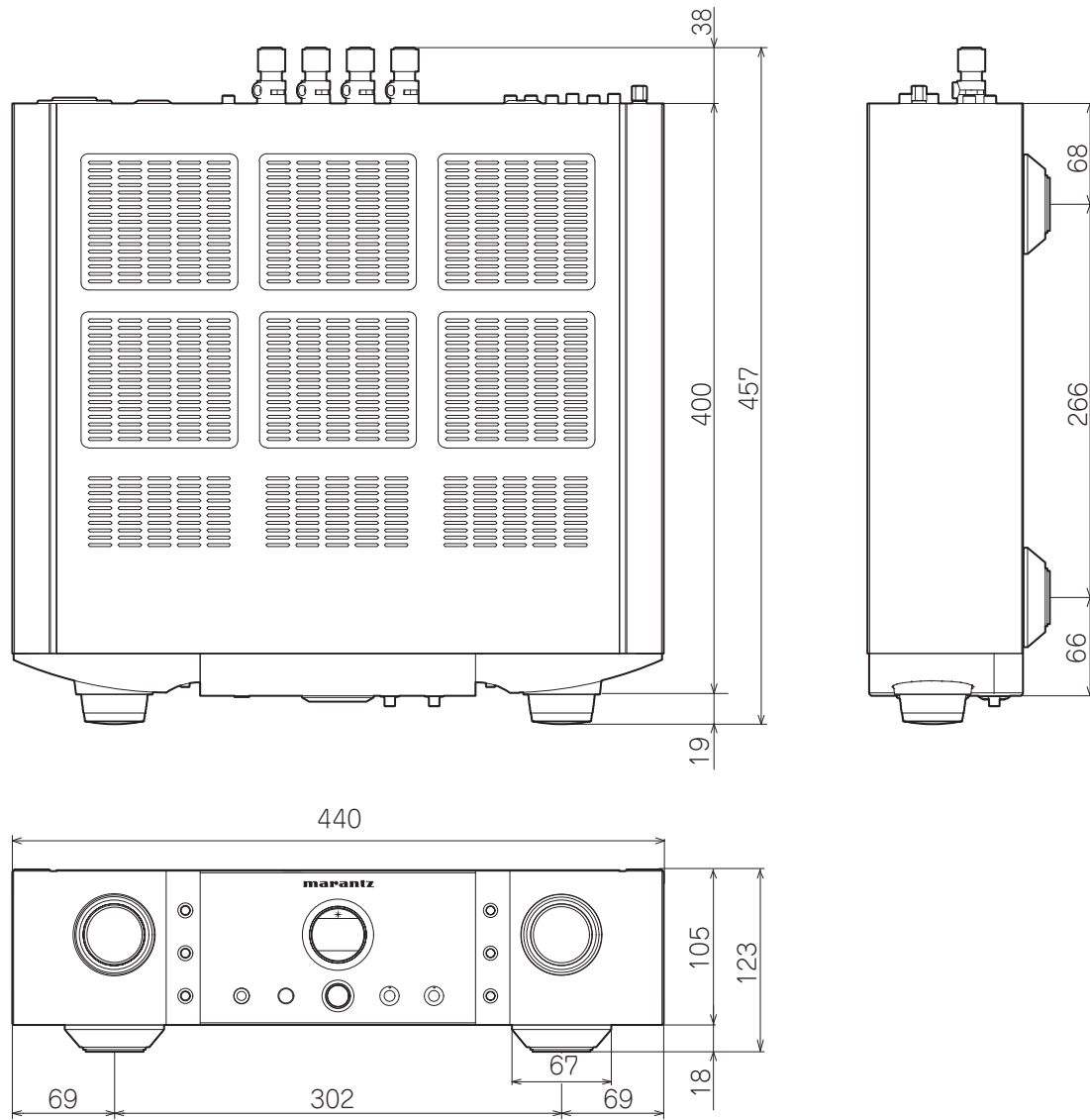






寸法図

単位：mm



質量：18.5kg

marantz®

お客様ご相談センター

☎ 0570 (666) 112

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

IP 電話をご利用の場合など、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。その場合は 03 (3570) 5138 におかけください。

受付時間 9:30 ~ 17:30

(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)

〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル

修理に関するお問い合わせは、
添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」をご覧ください。

後日のために記入しておいてください。

購入店名: 電話 (- -)

ご購入年月日: 年 月 日

株式会社 デイアンドエムホールディングス

当社の最新情報をインターネット上でご覧ください。

<http://www.marantz.jp>